

岡野弘彦先生が最終講義

国文学科教授 大島 信生

日本の歌壇の第一人者、岡野弘彦非常勤講師(國學院大學名誉教授、神宮皇學館普通科卒業)が今年度限りで退任されることになり、「伝統の心と技 和歌」の最終講義が平成二十六年十一月十九日に行われた。

「伝統の心と技 和歌」は秋学期に隔週で行われ、通常は大島が担当している。岡野弘彦先生には、秋学期に一度ご出講の上、前半の二コマは古典の和歌に関する講義、後半の二コマは学生の和歌を添削指導する形式で講義を担当していただいた。平成二十年度より設定された科目であるが、先生の体調不良の平成二十二年を除き毎年お越しいただいた。

「日本人の心を表現する 文語を守っていくべき」

今回、前半の講義で取り上げられた歌は、万葉集(舒明天皇、香具山に登りて望国したまふ時の御製歌)巻一・二と「額田王の近江国に下りし時作る歌」(巻一・一七)一八であった。二首について、歴史的な背景とともに、一首ずつ丁寧な解釈をされ、和歌の本質に言及された。先生は、「歌を作る上で大事なことは、言葉への執着、愛情、尊敬である。言葉は、日本人が日本列島に住み着き始めた頃から、大事に生み出し、育て、整え、力あるかたちで、整え、力あるかたちで、織り上げてきたものである」と説かれた。



歌、言葉への熱い思いや調べの大切さを学生に説く岡野先生

ある。言葉をおろそかにする人が、いい文章・いい詩歌が作れるはずがない。戦後、古代から大切に磨いてきた日本人の心を表現する言葉、文語(語体)は廃れてしまったが、文語を守っていくべきである」と説かれた。

昨年度の内定者数を上回る 平成二十七年三月卒業予定者 内定状況

企業・団体

景況改善により採用数が増加

アベノミクス効果による景況改善の改善は大手から中小まで、どの企業規模においても実感できる状況となり、採用意欲はますます高まっている。平成二十七年三月卒業予定者においては近年にない早いペースで内定者が続出し、企業・団体の内定者数は、十一月末時点で昨年度卒業生の内定者数を上回った。現四年生が三年次で行った就職対策講座への出席率が極めて高く、万全の準備を整えてきた成果とも言える。

教員

教員採用試験に六十二名が現役合格

公立学校教員採用試験は三重県・神奈川県・横浜市・新潟県・静岡県・岐阜県・愛知県・名古屋府豊能地区・大阪市・堺市・兵庫県・和歌山県で六十二名が現役で合格。職種別では高等学校一名、中学校四名、小学校五十七名で昨年度比十六名の増となった。六十二

全国教育関係神職協議会について

「全国教育関係神職協議会」は、教育界に従事する神職で構成される神社本庁の指定団体である。昭和三十五年(創設)以来、「日本の伝統を守り、神道精神の高揚に努力する」常に中正を守り、日本にふさわしい教育の振興に努力する「国家の隆昌と世界の共存共栄」に努力する「三綱領のもと、組織活動を行ってきた。現在、会員は約千名。会長を

務める河合鎮徳氏は鳥取県・葦原神社の宮司であり、本学の第一期卒業生でもある。年二回会報を発行しているほか、主に現職教員を対象とした研修会と、全国大会と併設した中央研修会を毎年開催している。前者は六月六日の午後、東京の神社本庁にて、後者は八月三日・四日の二日間、長崎県で開催される。なお、六月の「現職教員等研修会」については同

底を図り、この実績を維持、さらに増やしていきたいと考えている。なお、私立学校(小中高)については暁小学校・津田学園小学校・暁中学校・津田学園高等学校・皇學館高等学校・享栄高等学校等、県内外で十一名が合格した。また、公立の保育士・幼稚園教諭職については、四日市市・鈴鹿市・津市・松阪市・伊勢市・伊賀市・南伊勢町で十七名が合格と、教育学部に改組以来、最も多い数となった。私立については大川学園・神宮幼稚園・修道こども園等十七名が合格した。

奉職希望者内定率は九四・四%

求人状況については、今の経済状況の好転により、神社界も採用数の増加が見られた。一月十六日現在の求人数は、九十一社一四六名(昨年度八十四社一一九名)をいいただき、昨年度比

奉職希望者内定率は九四・四%

七社二十七名増となり、過去最も多い求人数となった。職種別の求人数は、神職一八名であり、その他巫女が十三名、神社の事務職が五名であった(昨年度は、神職一〇四名、巫女九名、事務職六

彬子女王殿下下来学



打合せに来学された彬子女王殿下

彬子女王殿下が、代表を務めておられる「心遊舎」の活動の一環であるワークショップを本学で開催するため、平成二十六年十二月十一日(木)来学された。

「心遊舎」は平成二十四年四月一日に設立され、日本の伝統文化が生き続けることができる土壌を形成したい、そして、「その核となる子どもたちに本物の日本文化にふ

れる機会を提供したい」という彬子女王殿下の思いに共鳴した有志一同で設立した団体で、本学も会員になっている。今回のワークショップは、平成二十七年八月二十五日(火)を予定しており、参加する本学の学生約六十名は御花神饌を作成し、石清水祭や御花神饌について学ぶものとなる。研究開発推進センターが窓口となり、参加募集等の時期は追ってお知らせする。

かプランを立てる。物を見て写真的にきちっと言葉で捉える。短歌は調べを大事にするので、自分の歌を声に出して詠み、自分の調べを身につける。また自分の好きな歌人のいい作品、歌集を声に出して朗読、朗詠することも大切である」と述べられた。

先生の講義は多岐にわたる内容で、大変意義深いものであった。岡野先生が最終講義に託された思いを今後も大切に引き継いでいきたい。

名、巫女九名、事務職六

名)をいいただき、昨年度比

名)をいいただき、昨年度比

名)をいいただき、昨年度比

就職内定者 VOICE

神道学科	新西悠慶	太宰府天満宮
国文学科	中村寿子	SMBC日興証券
国史学科	岡本和樹	中学校教員：和歌山県
コミュニケーション学科	渡壁由衣	三重銀行
教育学科	廣瀬千子	小学校教員：名古屋市
現代日本社会学科	石井優樹	三重県市町立小中学校職員

その他の内定者についても大学HP「内定者VOICE」でご紹介しています

就職活動という長い道のりを乗り越え、晴れて内定・合格を決めた先輩たちに、
実体験に基づく就職活動の秘訣・極意を語ってもらった。

内定先 太宰府天満宮

作法やスキルだけではなく “心構え”も身に付いた

神道学科 **新西悠慶**

幼い頃から神職である父の背中を見て育ち、地元・太宰府天満宮の付属幼稚園に通っていました。そうした環境の中、自ずと神様への崇敬心が養われたのだと思います。ごく自然に「神職になりたい」という気持ちが芽生えました。



神職養成部の方には面接の仕方や履歴書の書き方など就職活動に必要なスキルだけではなく、社会人として必要なビジネスマナーなども親切に指導していただきました。これらの機会を通して実際に奉職している自分の姿をイメージでき、就職活動に対する気持ちを高めていくことができました。また、奉職には神職の資格が必要不可欠です。そのため、神職課程の講義や神社実習を1年生の時から一つひとつ積み上げていくことが大切です。その過程で神明奉仕の心構えを身に付けることができ、結果、4年生で明階総合課程を履修し、大学で取得できる最高階位である「明階」をめざすことができました。神宮実習をはじめすべての実習単位を修得したことは、奉職活動先の高評価につながったと思います。

奉職後は皇學館大学で学んださまざまな知識や祭式の作法などを存分に活かし、参拝された方々が清々しい気持ちになっていただける神職をめざします。そしてお世話になった人たちに感謝の心を忘れず、一生懸命ご奉仕し、日々成長できるよう頑張ります。

内定先 三重銀行

友・授業・早めの準備が 就活成功のポイント

コミュニケーション学科 **渡壁由衣**

住み慣れた故郷を離れたくないとの思いがあり、地元企業を希望していました。三重銀行を志望したのは、合同企業説明会に参加した際、担当の方が業務内容だけでなく仕事に対する姿勢や考え方についても熱く語られていて、人間的にも成長できる職場環境だと感じたからです。



就職活動を振り返り、大事なポイントになったと思うのは三つ。一つは早めの準備です。まだ自分のやりたいことが見えず将来像も漠然としていましたが、3年次の4、5月頃から就職担当で面談を重ね、就職ガイダンスにも積極的に参加しました。そうした中で自ずと気持ちが「就活モード」に切り替わり、活動が本格化する秋頃には履歴書やエントリーシートをしっかりと練り上げることができました。二つめはコミュニケーション学科での授業です。グループセッションといった演習が多く、また、元アナウンサーの先生から話す時の姿勢や発声方法を学んだり、実践的な内容がとても役に立ちました。そして、三つめは頼もしい友の存在。どんな小さな悩みも受け止め、客観的な意見をくれる友人がいたことは、就職活動をするうえで何より心強かったです。

今回内定をいただくことができたのは、親身に支えてくれた友人や先生方、家族のおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、一生懸命頑張りたいと思います。

内定先 SMBC日興証券

限界を“突き抜けた”体験が 大きな自信につながった

国文学科 **中村寿子**

就職活動成功のポイントは、就職に関する特別講座を受講したことで自分の限界を“突き抜けた”体験をしたことです。



私は1年次からコンビニでアルバイトをしており、その頃から「クリスマスケーキの予約件数を前年より伸ばす」と目標を立て、1年目・2年目とクリアしてきました。3年次に受けた特別講座をきっかけに「もっと予約件数を増やすにはどうすべきか」を自分で考え、地元の企業に飛び込みで営業をかけたところ、予約件数が前年の2倍を記録。自分でも驚きました。現状に甘んじることなく、高い目標を設定して頑張れば、自分の限界値はどんどん上がっていきます。既存の枠を超えた行動、工夫の積み重ねによって予想以上の成果を出せたこの経験は、就職活動に取り組む上で大きな自信につながりました。また、特別講座では自分では気付かなかった自身の強みと弱みを知ることができ、面接やグループワークの練習を重ねたことで万全の準備をして就活に臨めました。

就職はゴールではなく、単なるスタートです。社会人になっていろいろな壁にぶつかることもあると思いますが、何ごとにもポジティブに考え、自分自身が成長していけるよう努力したいと思います。そして、トップセールスの営業レディをめざしたいと思います。

内定先 小学校教員：名古屋市

1年次から教職支援担当を活用。 精神的にも支えられた

教育学科 **廣瀬千子**

小・中学校で辛い経験をした時、先生をはじめとする周囲の大人に助けられました。今度は私が支える側になりたいと思ったのが、教員をめざしたきっかけです。



教職支援担当は1年生の頃から積極的に利用していました。担当の先生は懇切丁寧に私の論作文を指導してくださり、また、早くから顔と名前を覚えてもらえたので、面接練習に行った時など多くの方から優しい言葉をかけてもらえるようになりました。長く、厳しい就職活動を乗り切れたのは、技術的なサポートはもちろん、人柄の素晴らしい先生や職員の方が精神面でも支えてくださったおかげです。

実は、採用試験の直前、自信をなくしてとても情緒不安定になった時期がありました。なるべく友だちと話をしてストレスを溜めないようにしていたのですが、そんな時に教職支援担当の方から声をかけていただき、悩みを聞いてもらうことで前向きな気持ちになれました。これから教師をめざす人は教職支援担当を上手に活用すると良いと思います。

皇學館大学で4年間学んだことで、採用試験に合格することができました。でも、これはゴールではありません。将来は常に子どもに寄り添い、無償の愛で子どもたちを包んであげられる先生になりたいです。

内定先 中学校教員：和歌山県

多くの先生方の導きで 教育学部ではない自分が教員に

国史学科 **岡本和樹**

「将来、教員になれたら」と漠然と思っていた私ですが、教育実習や教員として働いている先輩と話をするうちに、「絶対に教員になる」という強い気持ちが生まれました。4年にわたり指導していただいた多田先生から、以前高校の教師をしておられた時の経験談を伺ったことも大きな要因になったと思います。



私は教育学部ではなかったのですが、授業で教職教養を学ぶ機会は多くありませんでした。そこで、とても役に立ったのが、教職支援担当に揃えてある過去問題や「教員採用試験特別対策講座」です。さらに、多田先生の「社会科教育法」という授業では、いろいろな学生が作成した指導案を見ることができました。自分の発想にはなかった多彩な教え方を学んだことが、教育実習で実際に教壇に立った時とても参考になりました。また、深草先生がおっしゃっていた「知識を教える方法より、歴史を好きになってもらう方法を考えなさい」との言葉は、教師をめざす上で私の重要なテーマになりました。

今思うと、大学では目上の方と話す機会が多く、普段から敬語や正しい日本語の使い方を意識していたことが面接の練習になっていたと思います。また、神宮参拝などの行事を通してスーツを着慣れていたことも、本番で緊張しないために重要だったと思います。

内定先 三重県市町立小中学校職員

就職活動に直結する 普段の授業を大切に

現代日本社会学科 **石井優樹**

三重県庁のインターンシップに参加した時、「小中学校事務」という仕事があることを知りました。この仕事は、学校づくりなどを通して子どもたちの成長に貢献するととても重要な仕事。学校を単なる「教育の場」ではなく、「地域の拠点」としても機能できるようにサポートするのが役割です。



就職活動を始めるにあたり、就職担当へは模擬試験の申込みに行ったくらいで、積極的には利用していませんでした。しかし、思うような結果が出ず、もう後がないなかで民間企業と公務員を併願するか迷っていた頃、就職担当の方から励ましの言葉をかけていただき、とても気持ちが楽になりました。就職担当にはたくさんの資料や過去の先輩たちが面接でどんな受け答えをしたかなども残されています。これから就職活動をする人は、絶対に有効活用してください。

皇學館大学では多くの経験を積むことができました。とくに現代日本社会学科では伝統文化や政治経済など幅広い分野を深く学ぶので、どのような話題でも自分の意見を述べられるようになったのは大きな強みだと思います。また、「礼法」や成功哲学の名著『7つの習慣』をテキストにした「現代日本演習Ⅰ」など、皇學館色あふれる授業がたくさんありました。こうした授業をきちんと受けたことも、就職活動成功の最大のポイントだと確信しています。

皇學館高校

皇學館は心の故郷

3年7組 城 貴斗



年齢18の私が言うのもいささか無理があるようにも思われますが、皇學館高校で過ごしてきた3年間は人生の中で最も大きなターニングポイントであったと確信しています。

まず第一に、総務委員長として皇高祭をはじめとする数多くの行事に携わった経験。千人規模の人数が参加する行事の企画は初めてで、想定通りに進行できなかったこともありましたが、翌年のスライドショー上映など各種の新企画はそれらの失敗があったからこそ成功できたと思います。

第二に、生涯の師と仰ぐことのできる先生との出会い。授業のみならず、自主学習や部活動においても学問だけではない教育を施してもらえたことにより、今の自分があるといっても過言ではありません。

3年間で得たものは必ずや私の人生を切り拓く力になるでしょう。皇學館で過ごした日々は、忘れ難き心の故郷です。

「清明正直」の精神を忘れずに

3年10組 大畑 綾音



満開の桜のもと、それぞれの期待を胸に入学してから3年が経ちました。今、思い返すと、さまざまな記憶が走馬灯のように蘇ってきます。勉強や学校行事に励み支えてきた仲間や、優しく時に厳しく丁寧に指導して下さった先生方に出逢えた皇學館高校は、たくさんの思い出が詰まった場所であると同時に、とても居心地の良い場所でもありました。しかし、私たち3年生は今、卒業を迎え新たな世界へ旅立つ時がきました。一人ひとりが自分の行動に責任を持たなければなりません。皇學館高校の卒業生として誇りを持ち、これまで培ってきた「清明正直」の精神を忘れず進んでいきたいと思えます。

最後になりましたが、3年間切磋琢磨し合ってきた仲間、どんな時も根気よく熱心にご指導して下さった先生方、そして何度ぶつかっても最後は私たちの夢を応援し「がんばりなさい」と背中を押してくれた家族に深く感謝いたします。

贈る言葉 重み、誇り、だから胸を張れる

高校第3学年主任 尾上 誠一郎

人生80年。その内のわずか3年、6年、全体の3.8%、7.5%。剣道修行で例えるなら基本練習の反復と掛り稽古(足捌き、体捌き、太刀捌きは勿論のこと、特に気力と体力の向上を目的とする稽古法・きつい)を熟す時間と言える。楽しいはずが無い、あくまで基本練習である。しかしそこには楽しさを超越した達成感が存在する。それは、それは大きなものである。その先を見据えた普遍的な訓練であり、褒めてもらえれば更に大きく太くなる重要な刻である。

昨年の暮、訓育室横の生徒玄関に本学の初代総長であられた吉田茂総長が本校のグラウンドと思われる所に本校生徒を前にし、椅子に座る写真が飾られた。後の保護者会会報に中村貴史校長が臣茂と題して解りやすく記しておられる。

卒業を前にする諸君は、この写真を見たことがありますか。必ず見てからにして下さい。私は全校朝礼時の写真だと勝手に思っていました。その全校朝礼は今も、本校の伝統的教育として脈々と続いています。形を変えながらも、大切にしている教育です。周りを見る(気を配る)、私語はしない(慎む)、気をつけ(心を正す)、整列(規律・協調性を養う)、暑い・冷たい・辛い(忍耐力・我慢)等は道徳心や規範意識を育むと考えます。それと講話での教育です。

日本のトップが来校する学校、母校の研究を式までに行き下さす。必ず、その重みと、母校を誇りに想うほど、深く重いものを感じることでしょう。また、それが社会に出た時、地に足をつけて胸を張って歩いていける原動力となることでしょう。

卒業おめでとう。頑張ってください。学年団一同、ずっと応援しています。

皇學館高校・皇學館中学校 卒業生随想

通い慣れた学び舎を後にし、夢と希望を胸に新たな環境へ――皇學館高校は三六六名、皇學館中学は五十六名が卒業を迎える予定だ。三年間の学校生活で何を感じ、何を学んだのか。彼らの言葉を紹介する。

皇學館中学校

何事も楽しむ気持ちが大切

3年A組 志村 日向



私はこの3年間、校友会本部役員として過ごし、皇學館中学校の代表として学校行事から校外活動まで、たくさんのごに関わらせていただきました。行事などを成功させることができたのは、本部役員だけではなく、全校生徒の協力があったからです。みなさん本当にありがとうございました。

校友会本部の仕事をしてきて、自分に自信が持てるようになった気がします。本部役員になると、前に出て話す機会が増えました。先輩たちの後ろ姿を見て憧れ、自分もこうなりたいと思って総務委員長に立候補しましたが、後輩に見られる立場は気楽なタイプの私に過度の緊張感を与えました。私の背中を見つけてくれる新しい仲間と行事を重ね、活動がますます楽しくなりました。この仲間とならどんな難しい仕事でも楽しく対応できると思えました。校友会活動はすでに襷をつなぎ終えましたが、私が感じた「何事も楽しむ気持ちの大切さ」「仲間の大切さ」を、後輩にもぜひ感じてほしいと思っています。

本当に皇學館中学校校友会本部で活動できてよかったです。ありがとうございました。

「団結」という宝物

3年B組 奥田 七海



3年生になり、クラスの団結がより一層深まったと私は思いました。

体育大会では短い練習期間の中で、放課後残ってたくさん練習しました。当日も朝早くから集まって練習し、本番に向かいました。結果発表では嬉しくて盛り上がるクラス、悔しくて涙するクラスなどがありましたが、どちらも一生懸命取り組んだからこそその感情の表れだと思えます。クラス全体が団結して「優勝」という一つの目標に向かい、頑張ったからだと思えます。

そして、最大の行事の皇中祭では、7月からの長い準備期間に私のクラスでは思うように進まない準備や意見の違いなどで口論になってしまうという場面がたくさん見られました。しかし、迎えた当日はみんな笑顔。教室に来ていただいたお客様の笑顔と重なって、私は嬉しくて幸せになりました。

3年間いつも支えてくれた家族、友だち、先生方に感謝し、この「団結」という素晴らしい宝物を胸に秘め、日々前進していきたいと思えます。

贈る言葉

みなさんは私の誉

中学校第3学年主任 岩崎 真理

私の机の上に飾ったお気に入りの一枚に、1年の「クラス十一脚」の写真があります。既にその時も、みんなから大丈夫かと気遣っていただいたのですが、「先生、俺が引っ張ったるでな」とまだ高い声でのたまう男子が、私の小脇にすっぽり収まっていて、自分がこけてペしゃんこにしたら大変だとドキドキした思いと相まって、いつ見ても微笑みがこぼれてしまうのです。

卒業式を間近に控えた3年生は、著しい人で身長が20センチ、体重が10キロほど増えました。教壇以外で話をする時、私はみなさんを見上げて話をするようになりました。すれ違いざまに「大きくなったねえ」が口をつくとき、私はえも言われぬ喜びに包まれ、やはり微笑んでいるのです。

この著しい成長を見た3年間、いろいろなシーンが思い浮かびます。連合陸上の応援練習に始まり、体育大会、皇中祭と、取組みは熱意に溢れ、年々進化を遂げました。そして、侃々諤々意見を戦わせて流した涙の分だけ距離が縮まり、友情が深まったように思えます。

そして、志摩宿泊研修、岐阜スキー研修、沖縄修学旅行などの校外活動では、単に楽しむだけではなく、集団の一員としての行動をしっかりと身につけることもできました。

あれもこれも思い出は「日々是好日」の全て吉。皇學館中学校で頑張った分の、自信と誇りを胸に邁進してください。貴方たちは私の誉です。前途洋々を祈念しています。

皇高NEWS

全国大会での活躍誓う

女子卓球部・囲碁将棋部

格上との練習で弱点克服

女子卓球部 キャプテン 菅沼 春菜(二年三組)

六名で活動している私たち女子卓球部は「自分の人生のために」というテーマのもと、「全国大会ベスト8」「東海大会優勝」をチーム目標に日々練習に取り組んでいます。普段の練習や自主トレーニングだけでなく、日常生活のすべてを卓球に置きかえて取り組むことで、他校では決して味わうことのできないような内容

一手一手を大切に

囲碁・将棋部 瀧 直哉(一年十組)



部員全員で全国大会へ

国民体育大会・全日本選手権への出場を決め、さらに昨年十一月に行われた東海大会個人部、全国大会団体部の三重県予選会ともに優勝することができました。三月二十五日から香川県の高松市で開かれる全国大会では三重県及び東海地区の代表として頑張ります。そして、活躍する姿を披露することで、日頃支えてくださっている先生方や家族に恩返しをしたいと思っています。

僕は昨年十月に津市で開催された高校生将棋新人王戦で優勝し、一月に新潟で開かれた全国大会に初めて県代表として出場しました。僕の将棋歴は長く、小学校三年生から習い始めました。中学校でも将棋部に入り結果

参加して熱く、見て感動

武道・バドミントン大会&ダンス発表会

昨年十二月二十二日に行われた恒例の武道・バドミントン大会。女子はバドミントン、二・三年生の男子は武道、ダンスと選択科目によって分かれ、それぞれ日頃の練習の成果を発揮した。なお、ダンス発表会は創立以来初めて開催された行事である。

九組だ。「絶対に負けられない」と意地を見せる先輩と果敢に立ち向かっていく後輩の戦いは、当の選手はもちろん、見ている方も熱くなる。勝敗ではなく、熱心に取り組む姿にこそ人は感動するのだとわかった」と話した。

「対戦相手が同学年とは限らないところが面白い」と語るの、バドミントン大会に参加した荒木美来さん(三年

朝練をしたりと、よりよいダ



竹刀の音が響く熱気に満ちた道場



緊張がほぐれてくると本領発揮!



歓声を浴びながらダンスを披露

ダンスをするために励んできた。おかげで今日は自分でも納得のダンスができ、充実した一日だった」と満足げな表情を見せた。

武道大会を見学した中川初保さん(二年十組)は「凛とした立ち姿からは冷静ささえ感じられ、心底格好良いと思っ



全国大会初出場の瀧君

皇中NEWS

新校友会役員が抱負

万事笑顔で万事解決

総務委員長 松田 ひな子(二一B)

私がめざすのは、笑顔が日常にある学校です。私自身を含め、生徒全員がそうした毎日を送れるよう頑張っていきたいと思います。「万事笑顔で万事解決」をモットーに、みんなと一丸になって取り組んでいきます。

代表であることを自覚

総務副委員長 阿部 七子(二一B)

私は校友会本部役員になって、全校生徒の前に立たなければいけない存在、つまり皇學館中学校の代表であることを改めて強く感じました。その役割を全うできるように常に自覚を持ち、この七人で協力し合い、精一杯頑張っていきたいと思います。

最後まで諦めない

総務副委員長 志村 茜(二一A)

みんなの中学校生活をよりキラキラと輝いたものにするため「笑顔」と「一生懸命さ」を忘れず最後まで諦めずに取り



12月17日に立会演説会・選挙が行われ、7名の新校友会本部役員が誕生した

行動力を高めたい

書記 清水 希予志(二一A)

自分の行動力を日々高めていくことを目標に、この一年をしっかりと過ごしたいと思っています。また、皇學館中学校をさらに素晴らしい学校にするため、七名で力を合わせて盛り上げていきたいです。

さらに素敵な学校に

会計 江藤 朋華(二一B)

私が校友会本部役員になった理由はいろいろな行事で運営に携わり、皇學館中学校をさらに素敵な学校にしたいと思っただけです。そのために、今、自分のできる精一杯のことを一歩一歩確実にクリアして頑張っていきたいと思います。

挨拶のあふれる学校に

会計 西井 梓(二一B)

先輩方が皇中祭などで何事にも一生懸命に取り組む姿に憧れ、校友会本部役員になりました。これからは私の目標である「挨拶のあふれる学校」に向かって突き進み、七人の力を合わせて、先輩方以上に素晴らしいチームにしたいと思っています。

戦争のない世界を作りたい

沖縄修学旅行

昨年の十二月十日から十二日にかけて行った修学旅行で、沖縄への思いが大きく変わりました。それまでは楽しい南国リゾートというイメージでしたが、そこには悲しい戦争の歴史がありました。ひ

に心が苦しくなりました。この時の気持ちを忘れずに、戦争のない世界を作りたいと思います。国際通りや体験学習では沖縄の人々の温かさに触

れて感動し、自分もこんな温かい人になりたいと思いました。万座毛や瀬長島ではきれいな海を、美ら海水族館ではジンベエザメや珍しい南洋の魚をたくさん見ることができて嬉しかったです。ぜひまた行きたいと思っています。

クラス代表者六名による個人戦はハイレベルな戦いに。こちらにも応援する声も素晴らしく、暖かいものであった。



二年生の活躍光る

百人一首大会

めゆり平和祈念資料館を見学して、沖縄戦での悲惨な出来事を知り本

一月十四日に新年恒例の百人一首大会が実施された。クラス対抗は五チームに分かれて対戦し、二十五首から二十首を競う。くじで席が決まり二十秒の暗記タイムに入

ると会場の雰囲気は一変。札の場所を覚える選手の真剣な表情に観客席も静まり、先生が和歌を読み上げるとすぐに札を取る音や声が響いた。一首ごとに笑顔になる者、悔し

総合優勝	二年B組
準優勝	三年B組
個人優勝	梶野嘉人(二年A組)
音羽拓実(二年B組)	

皇學館サウンドシャワーを初開催

明和イオンで中・高・大合同の音楽イベント

年末の買い出しで賑わうイオンモール明和一階ハナショウブ広場にて、昨年十二月二十五日、大学・高等学校・中学校の各音楽系部によるコンサート「皇學館サウンドシャワー」が開催された。これは、地域の方々に本学園の学生・生徒の日頃の活動の成果を体感していただくことと企画されたもの。



力強く、かつ、透き通った歌声で数々の名曲を熱唱する中学校・合唱部

大学からは学内イベントや地域の小学校などで数多く演奏を披露し活躍する「邦楽部」が出演し、箏、尺八などの和楽器で古典風な曲から現代風な曲まで幅広いジャンルを演奏した。どの部員も大學生らしい堂々とした立ち振る舞いで安定した力量をいかんなく発揮。会場からは盛大な拍手が送られた。



迫力の演奏を披露する高校・吹奏楽部

高等学校からは昨年夏の県吹奏楽コンクールで二年連続の優勝、東海吹奏楽コンクールでも二年連続金賞を受賞した「吹奏楽部」が約二十名の小編成を組んで参加した。クリスマスらしい雰囲気彩られたモールにふさわしいクリスマスソングのほか定番曲も織り交ぜ、迫力の演奏を披露。モール内を慌たたく行き来する客も思わず足を止め、耳を傾けていた。



大学・邦楽部による和楽器の音色を堪能する聴衆

また、中学校からは皇中祭、県私学展などで活躍した「合唱部」が出演。可愛らしい振り付けと伸びやかなボイスで、「サウンド・オブ・ミュージック」の世界を表現し、会場は中学生らしい爽やかな空気に包まれた。聴衆からは「皇學館の学生さんはしっかりしているね」「感動的な演奏をありがとうございませした」などの声が寄せられ、地域の方々に学生・生徒の姿を通して本学園の教育趣旨を理解していただく絶好の機会となったようだ。学生や生徒たちも「実際の反応を肌で感じることで、今後の励みになった」と話す。

初の女性総務委員長が誕生

第五十四期学友会が発足

昨年十二月十六日に第五十四期学友会総務部の任命式が行われ、計五名の学生が新役員に就任した。以下に、初の女性総務委員長として就任した浮田紗希さんの抱負を掲げる。

テーマは「有言実行」

教育学科二年 浮田 紗希

学友会は学生と教職員が一体となり、課外活動などの企画運営を行う組織です。我々学友会総務部は学生の代表として、学生生活をより良いものにするために学生の意見はなくてはならないものと考え、学生の意見を反映するための努力を惜しまぬようにしたいと思っています。たとえば、SNS等を活用しつつ幅広い意見収集が出来るような制度を整えていきたいと考えています。

私が大学創立以来初めての女性総務委員長ということで、より一層大学の発展に寄与できるように尽力できればと思っています。変えていきたい事も多々ありますが、伝統を重んじる心を忘れずに精進して参りたいと思っていますのでよろしくお願ひ致します。

第54期学友会役員

総務委員長	浮田 紗希	教育学科2年
総務副委員長	小森 翼	教育学科2年
会計委員長	鈴木 寛	教育学科2年
庶務委員長	長岡 由莉	教育学科2年
庶務委員	辻本 祐太	現代日本社会学科2年



表情を引き締め、学長より任命状を受け取る浮田さん

学生にまちづくりへの参加を呼びかけ

市長トークinキャンパス

伊勢市の鈴木健一市長が一月十五日、本学を訪れ、「平成二十六年度市長トークinキャンパス」と題し講演を行った。この講演は、日本人の

心ふるさと、といわれ伊勢について深く学ぶ本学ならではの全学部共通科目「伊勢学」の授業の一環として毎年開かれているもの。

鈴木市長は、一年生約七百名を前に式年遷宮と伊勢のまちづくりの歴史、人口推計から読み取れる伊勢の将来予測、今後の政策などについて熱弁。「今後、税収減や医療費の増加が見込まれる中、

伊勢市及び二市五町（鳥羽市、志摩市、度会郡玉城町、度会郡度会町、度会郡大紀町、度会郡南伊勢町、多気郡明和町）の自治体と連携して人口定住のために必要な生活機能確保していく「伊勢志摩定住自立圏」の取組みについても説明。「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムに参画する本学学生たちにまちづくりへの積極的な参加・協力を呼びかけた。

三重大と合同シンポジウム開催

「聖地熊野—その祈り—」

熊野古道の世界遺産登録十周年を記念して、本学と三重大学は合同シンポジウム「聖地熊野—その祈り—」を昨年十二月十四日に開催した。両大学の



教授より「熊野信仰の特質」、本学文学部多田實道准教授より「熊野権現と伊勢神宮」をテーマとした講演が行われた。山田教授は熊野が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されていることに触れ、「参詣道が含まれていることに大きな意義がある。歩くことだけが汗となって流れて消えていく。熊野信仰では心の清らかさが大事」と説明した。多田准教授は熊野三山の祭神の変遷をひも解きながら、伊勢と熊野を結び付けようとする試みが古くからなされてきたことを解説した。

後半は本学研究開発推進センターの岡野友彦センター長、山田教授、多田准教授による三者シンポジウムが行われ、興味深い議論が繰り広げられた。閉会挨拶で清水潔学長は「伊勢と熊野という素晴らしい精神文化の原点を三重にとどまらず、日本、あるいは世界の聖地として情報発信していく必要があるのではないかと述べ、本日は熊野論を考える上で新しい側面の議論が展開され、大変充実したシンポジウムとなった。来年以降も両大学の象徴的な文化事業として続けていきたい」と締めくくった。



まちづくりへの積極的な参加を訴える鈴木市長

計報

研究開発推進センターの山口剛助教が英国・ロンドンのロイヤル・フリー・ハムステッド病院 (Royal Free Hospital) にて現地時間十二月二十九日午後六時十六分（日本時間十二月三十日午前三時十六分）に肺炎で逝去されました。四十歳。謹んで哀悼の意を表します。なお、告別式は一月二十五日に滋賀県草津市の草津シティーホールにて執り行われました。喪主は父正勝氏。

イベント情報(2~3月)

- 2月 28日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会「神道ことはじめ」
岡田芳幸(研究開発推進センター教授・学芸員)
 - 3月 7日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
1日・短期講習会 原文で読む『日本書紀』神代巻
松本 丘(文学部教授)
 - 14日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
「古事記」を読む(下巻)「用明〜推古天皇」
白山芳太郎(文学部教授)
 - 28日 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—
「当麻寺における神仏習合と神仏分離」
河野 訓(文学部教授)
- 各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認くださいませようお願いします。
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願いします。
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願いします。

皇學館中学校 卒業式
3月14日(土) 皇學館中学校セミナーホール
10:00~

皇學館高校 卒業式
3月2日(月) 皇學館大学 記念講堂
10:30~

皇學館大学 学位記・修了証書授与式
3月18日(水) 皇學館大学 記念講堂
11:30~

祝賀会
14:00~15:30 総合体育館メインアリーナ
※卒業生のご家族の皆様もご参加いただけます。ぜひお越しください。

皇學館大学教育学部 卒業記念ミュージカル
シンドバッドの大冒険
~こころのコンパスを信じて~

★予約不要★入場無料(先着順)

教育学部4年生の有志によるミュージカルです。今年は、シンドバッドと冒険の旅に出た男の子が数多くの出会いを通して成長していく物語。例年ない演出をたくさん凝らした作品となっています。

会場でお待ちしています。ステキな冒険に出航だ!

伊勢公演 2/21(土)・22(日)
皇學館大学記念講堂
開場●13:00 開演●13:30 ※15:30終了予定

津公演 2/28(土)
三重県総合文化センター 大ホール
開場●13:30 開演●14:00 ※16:00終了予定

お問い合わせ先
皇學館大学 教育学部研究室
TEL 0596-22-6458(直通) 0596-22-0201(代表)

編集後記

地域の平凡な子どもたちを天下を揺り動かす人材に育て上げた吉田松陰は「志を立てて以て万事の源となす」すべての義は志を立てることから始まると説いた。学内成人式で松浦教授が「夢と志は別なもの」と語ったように、夢は個人の願望だが、志にはそれを超越し社会をより良く変革しようという強い意志がある。このほど策定された「皇學館大学140周年研究ビジョン」中期行動計画は、本学が創立百四十周年を迎える平成三十四年に向け、具体的な計画とともに大学としての志を示すものである。教職員一丸となり、志を持って社会に貢献できる学生を育てていきたい。(企画部)

文部科学省 **地(知)の拠点**

大学COC事業のホームページを公開しました!

<http://coc.kogakkan-u.ac.jp/>

平成26年度に採択された文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)のホームページが完成しました。本学では伊勢志摩圏域の未来のために、「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる人材育成をめざします。

英国・ケント大学
「神都・伊勢の歴史と文化」交流事業を開催

コミュニケーション学科教授 児玉玲子



清水学長による基調講演「伊勢の神宮と日本の神道」



左から、清水学長、A・テイラー カンタベリー市長、池田教授、鈴木伊勢市長

昨年十一月十七日から二十日にかけて、英国・ケント大学において、清水潔学長と日英比較文化研究会(池田久代文学部教授代表、津田学術振興基金助成)のメンバーが「神都・伊勢の歴史と文化」と題したシンポジウム等の交流事業を開催し、両校の交流を深めた。

ケント大学とは平成二十三年度に学術交流協定を結び、教育交流分野では本学学生を短期語学留学学生としてこの四年間で百名程度派遣するなど、活発な交流を行っている。また、研究交流分野については新たなプロジェクト始動に向けた意見交換をしてきた結果、日英比較文化研究会が中心となり、津田学術振興基金の支援を得て、二十五年度はケント大学から二人の研究者を招き交流事業を開催、今年度は本学研究チームがケント大学に赴き、プロジェクトを展開することになった。

観光都市として伊勢市と共通点が多く、今回は、鈴木健一伊勢市長を筆頭とする伊勢市訪問団も、カンタベリー市との国際連携事業の打ち合わせのために渡航した。

ケント大学で十一月十八日に開かれたシンポジウムでは、まず、清水学長が「伊勢の神宮と日本の神道—循環の文明—」と題し、神宮や式年遷宮行事の画像を交えて神道の自然観や生命観を説明し、循環に基づいた日本文明の特徴を論じた。次に、田浦雅徳教授「近代の伊勢と神宮」午後からは山口剛史助教「近世の伊勢参宮」、池田教授「日

本の茶文化と神道」の講演が続いた。通常学期中ではあったが、学生や学内外の研究者など延べ二百名以上の聴講者があった。また、同時開催には伊勢市は特設ブースを設置し、PR活動を行った。グローバル時代にあつて異文化理解はますます重要視され、ケント大学でもこのような事業を好意的に受け入れており、学生たちの関心も高いようである。

今回の訪問は、両大学の交流推進の面でも有意義なものになった。訪問初日(十一月十七日)にはケント大学K・マンダー副学長の歓迎を受け、お互いの大学の紹介を交え歓談した。また、昨年来学された、J・ショート講師の所属先であり学生の短期語学留学の受入先である英語・世界言語センターと、N・ガフイールド教授所属の英語学部では、講演の運営をはじめ、さまざまな尽力をして戴き、随所で心温かいおもてなしを受けた。A・マニングセンター長らと

の会談では、今後の学生の更なる交流事業について協議し、さらに、十一月二十日に開催されたケント大学創立五十周年の記念講演式典に、清水学長、池田教授、鈴木市長がD・ウォーレン同大学理事長(前駐日大使)から招待を受けるという貴重な機会も加わった。

最後に、大学と地域の連携の重要性は両大学共に認識しており、ケント大学及び本学の仲介により、伊勢市長とカンタベ

リーの市長との交流協議が好意的な雰囲気の中で行われたことも記しておきたい。伊勢市と本学が共に訪問できたことは、非常に意義深く、引き続き、新たなプロジェクトである国際シンポジウム等の開催(カンタベリー市)に向け、協働を開始したところでもある。

ケント大学との双方交流は実を結び始めた。この歩みを止めることなく、より一層の飛躍を期待したい。

小学生にもわかる「が」コンセプト
「遷宮浪漫〜伊勢ふたり旅〜」を発売!

本冊子は本学の教員15名が読売新聞地域版に全38回(平成25年2月〜翌26年2月)にわたり連載してきた「教えて遷宮」の記事をもとにまとめたものです。「小学生にもわかりやすく語る」をコンセプトに、伊勢神宮で20年に一度行われる「遷宮」についてQ&A形式で解説。その全体像や諸々の祭り・行事、ゆかりの人物、さらには神宮の歴史や現在の姿まで幅広く紹介しています。この一冊を手にも、お伊勢さんの魅力再発見の旅に出てみませんか?

A5判・90頁 500円税別 ※送料別
【お申込み】皇學館サービス株式会社
お名前・ご住所・電話番号・購入部数を FAX またはメールでお申込ください。
FAX 0596-22-85662
Eメール k-service@kogakkan.co.jp
【お問合せ】同社 ☎0596-22-85661

日本インカレ「五〇〇Mで若菜君が七位入賞

昨年九月五日から七日にかけて埼玉県の熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で開催された第八十三回日本学生陸上競技対校選手権大会(通称「日本インカレ」)にコミュニケーション学部の若菜一君(駅伝競走部所属)が出場。初日に行われた男子1500Mで並み居る強豪選手たちと互角に

戦い、七位入賞を果たした。若菜君は予選から積極的な走りを見せ、自己ベストとなる三分四十九秒〇八をマーク。迎えた決勝レースは山梨学院大学のオムワンバ選手や城西大学の村山紘太選手が出場し日本記録更新の期待がかかるほどハイペースで進んだものの、若菜君は臆することなく攻めの姿勢で挑み、十二人中、七位という見事な結果をおさめた。



日比監督(右)とともに学長室を訪れ、清水学長に成績を報告した若菜君(中央)

「学年が上がるにつれ、周囲から求められるレベルも高くなっていく。その期待に応えるのが自分の役目であり責任と考え、この一年間頑張ってきた」と話す若菜君。今回の入賞に関しても喜びつつ満足はしていない様子で、「まだまだ上があるので、もっともっと練習して日本チャンピオンをめざしたい」と意気込みを語った。

なお、若菜君は十二月七日に行われた第七十六回東海学生駅伝(愛知県知多半島一周コース)の一区においても区間賞を受賞という活躍を見せた。今後の駅伝・ロードレースシーンもさらに盛り上げてくれるだろう。